

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版、名古屋市建築 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2014(v.1.22)
 物環境配慮制度運用マニュアル2014

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名駅四丁目②敷地計画	階数	地上13F
建設地	名古屋市中村区名駅四丁目2406、	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	390 人
気候区分	4地域	年間使用時間	3,650 時間/年
建物用途	飲食店、	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2016年4月 予定	評価の実施日	2015年4月20日
敷地面積	326 m ²	作成者	
建築面積	206 m ²	確認日	2015年4月20日
延床面積	2,631 m ²	確認者	



外観
図を
シアー
ときは
解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE0.9 ★★★★★

☆:S:★★★★★ A:★★★★ B:★★★ B+:★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 都市景観形成地区(名古屋駅地区)に基準に基づいて設計</p>	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 テナントビルのため現時点ではスケルトン	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 バリアフリー新法を満たし、テナントビルとして点検等は共用部より実施できる計画	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 テナントに対しては清潔感を維持する材料の選択を指示
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 テナントに対し高効率の機器の採用を指示	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 テナントに対して資源配慮の材料の採用を指示	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 都市景観形成地区として配慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される